

『風景画』(絵画)の準備をしておきましょう！Ⅱ

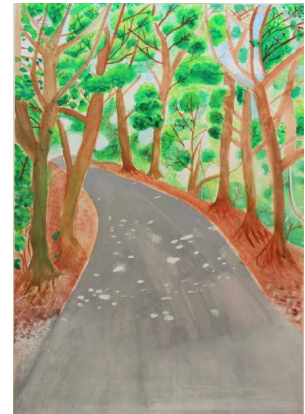
今回は、予告通り『風景画』を描くにあたって、どのように構図を決めていったらいいか考えてみましょう。

- ※【美術資料】の『構図と遠近法』の(P16)
 - 【美術資料】の『風景を描く』(P38~P39)
- をあわせて見ると参考になると思います。

まず、前回の復習を兼ねて

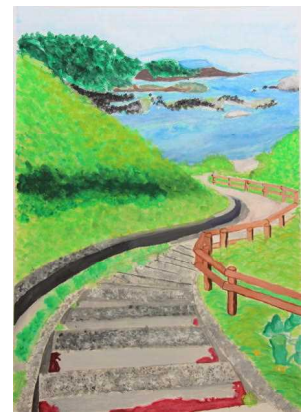
1、生徒作品を鑑賞してみましょう。

【線遠近法(透視図法)】が意識されている作品



右側の2作品は、直線の道路ではありませんが、遠くに行くほど道幅が狭まっていくということで、一点透視図法の描き方が活かされています。また、左端の作品は、遠くの山までの距離がかなりあることから、彩色においても空気遠近法を取り入れています。

【空気遠近法】が意識されている作品



遠くの山(遠景)になるほど、輪郭が不明瞭になり、青味がかって空の色に近づいていくような感覚で淡く彩色をしています。それに対して、近くの物(近景)は、くっきりした色みで彩色して遠近感を表現しています。

構図を決める上でも、距離感を表現するために意識的に近景→中景→遠景と画面に入るような場所を選ぶと遠近感が出しやすいとされています。

次に、具体的に制作を進めるために

2、制作の手順を頭に入れておこう。

風景を描く場所が決まったら本来は、まず取材（絵を描くための準備）をします。取材とは何をするかというところ、私なら、

①どんな絵に仕上げたいのか、イメージを決定します。

※風景画だからといって、見たままを描くだけではありません。作者が見る人に伝えたいイメージや感じてほしい雰囲気、空気感などがあると思います。それによって描き方が変わってくるはずですよ。

また、ある程度はここで構図が決まります。

②その場所のスケッチをしたり、写真を撮ったりします。

※本来写真を撮るだけでは、本当の印象や雄大さ、遠近感などは捕まえられません。写真はかなり精巧に形を写し取りますが、遠近感や空気感は、つぶれてしまいやすいのです。また、若干形もゆがみます。

ここで、構図を決める自信の無い人は、少し広めに写真を撮っておくといいかもかもしれません。（後で相談して決められます。）

③構図を確定しながらエスキース（アイディアスケッチ）を作ります。

※スケッチブックに、構図の微妙なところを最終決定しながら、思ったイメージになっていきそうか、描いて確認してみます。

④いよいよ画用紙に制作を開始します。

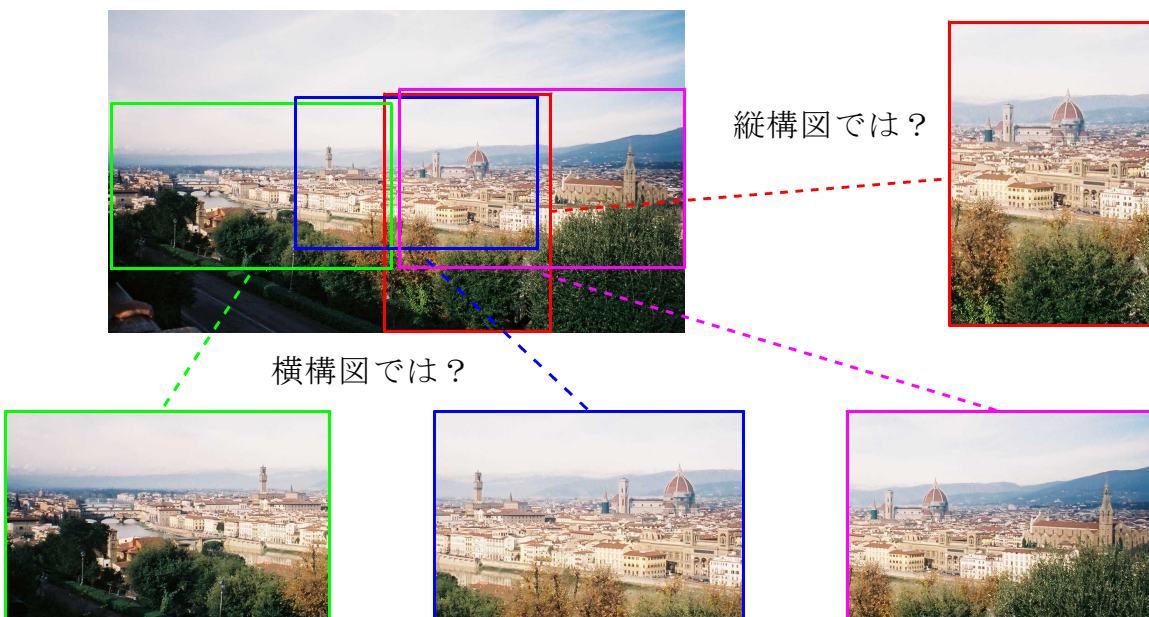
では、

3、構図をどうしたら良いか？考えてみよう！

風景を描く場所を決める時、構図を意識して探していくと、より具体的に制作が進みやすいと思います。ここでは例を紹介しますが、考え方や好みも様々なので、あくまでも参考にしてくれたいと思います。

【例1】有名な『ミケランジェロの丘』からの景色です。

ここ1カ所からだけでも幾つかの構図が考えられます。



【例2】『うちの近所』の景色です。

前ページの【例1】では、1カ所から見て、どこを切り取って絵にしようかを考えました。今度は、決めた場所の構図をどのように最終決定していくかを考えてみたいと思います。

第1段階 縦構図:左側



右側が切れすぎて息苦しさがある。

縦構図:中央



まともには良いが空と道路の面積が広い。消失点が真ん中すぎ？

縦構図:右側



左側が切れすぎて落ち着かない感じ。木の面積が広すぎ？



①この写真が風景画を制作しようと思う場所の元の写真です。まず第1段階として、縦横の比率が画用紙と異なるので、画用紙の比率に合わせて、縦と横の構図に区切って考えてみました。

横構図:上側



そんなに悪くはないが、やや空の面積が多いように感じるかも…

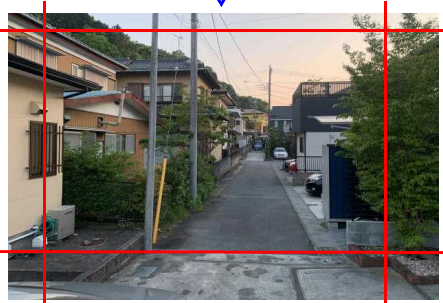
横構図:下側



微妙だけど、上よりも、こちらの方がまともが良いような気がするかな？

②第2段階として、【横構図:下側】を作品にしていくことに決め、最終的な構図を決定していこうと思います。

第2段階



バランスを考えて、削っても良いと思うところを削ります！



これを決定版にしました！

最後に、

4、エスキース(アイディアスケッチ)を描いておきましょう。

今までの学習を終えて、どこの風景を描こうか決めて、写真を用意しましょう。そして、ある程度構図を考えてエスキース(アイディアスケッチ)を描いて準備しておきましょう。微妙で悩んでいる部分、迷っている部分があったら、描く前に相談して最終決定してから画用紙に描いていくようにすれば大丈夫です。

今回構図を決める説明に使用した『ミケランジェロの丘』からの景色は、20年弱前にイタリアに行ったときに「ここから絵を描いてみたいなあ」と思って私が撮った写真を使いました。カメラのファインダーをのぞくと、普通は、すでに『かっこいい構図』を考えて写真を撮ってしまうので、もう区切ったり、削ったりしなくてもある程度、その時に「いいな」と思った構図で写しているものです。だから、今回説明に使うのに適した写真がなかなか見つからずに困っていたのですが、ちょうどその時、近い将来作品を描くための取材のつもりで撮った写真が出てきたので使うことにしたものです。

『うちの近所』の景色の写真については、今回の説明のために夕方、息子(高校生になったのに、入学式も中止になって自宅待機している長男)とゴミ捨てに行った時に写してきた写真です。イタリアのフィレンツェも清水町も絵を描く題材としては、1mmも隔たりはないのです。

美術は、man to man で話をしたり、相談しながら制作をしていかないと、なかなか進まない教科です。できるだけ、分かりやすいようにプリントをまとめているつもりでいますが、なかなか伝わらない部分も多いかと思います。是非、分からないことがあったら、登校する日に遠慮なく磯谷のところまで寄ってください。すぐ聞きたい場合は、学校に電話してくれても大丈夫です。

【予告】

臨時休業が、延長になってしまったので、今回は、次の課題のオリエンテーションと制作にとりかかるための説明をしていきたいと思います。

そして、

- 第1に、ポスターの仕上げをできるだけ進めておく。
- 第2に、風景画の写真を用意しておく。
- 第3に、風景画のエスキースを描いておく。

という優先順位で、美術の授業の準備をおねがいします。